

# せん断流動下における粘度・結晶化発熱同時測定及び直接観察

(山形大・工) 柳田秀之、渡辺香織、滝本淳一、小山清人

## 〈目的〉

せん断流動下におけるPPの粘度上昇と結晶化挙動を調べる。

## 〈試料〉

ポリプロピレン (i-PP)

チッソ石油化学(株)

Mw = 225,000

Mw/Mn = 4.48

## 〈実験方法〉

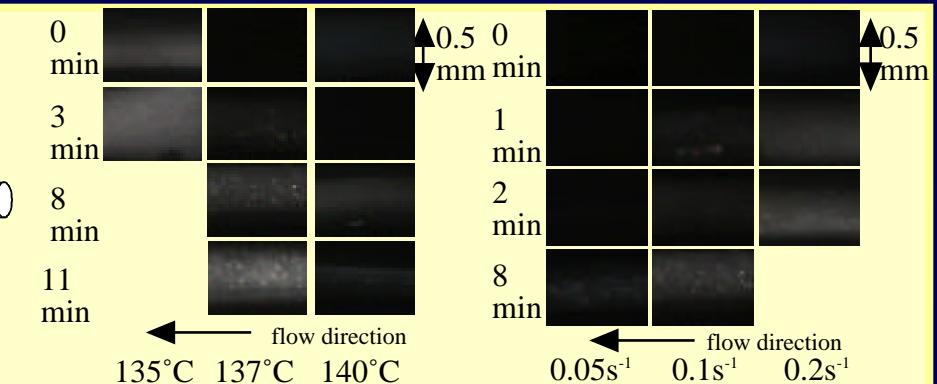
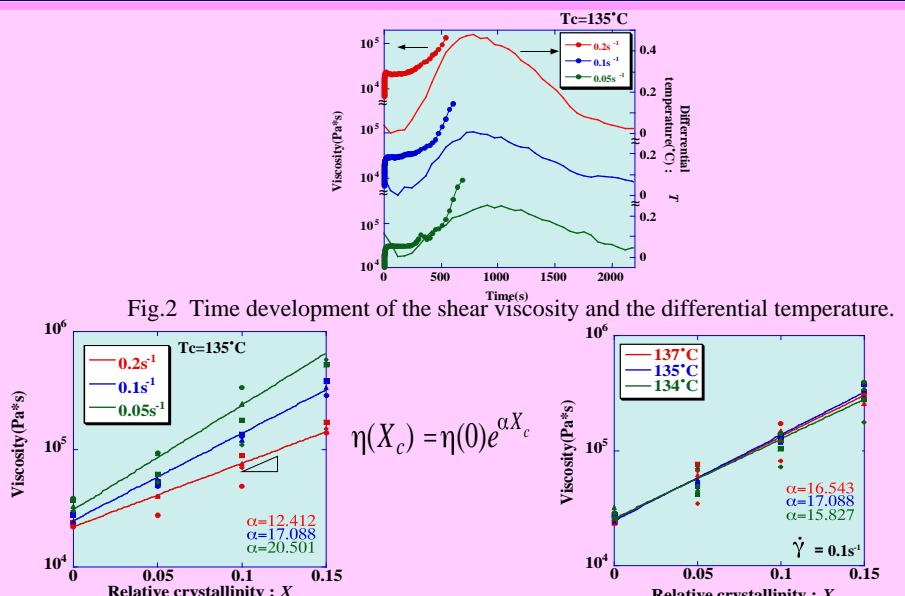
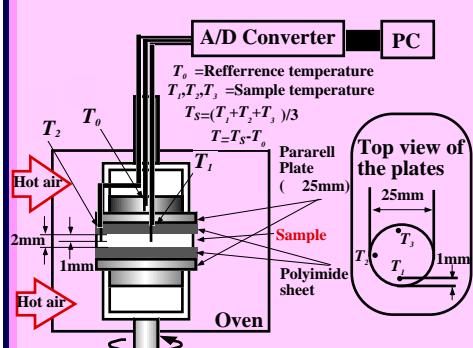
温度(°C) 溶融 冷却 測定開始

200  
T<sub>c</sub>  
0 600 300 時間(s)

T <sub>c</sub>	134, 135, 137, 140°C
•	0.05, 0.1, 0.2 s <sup>-1</sup>

## 〈実験装置・実験結果〉

### 実験1 粘度・結晶化発熱同時測定



### 実験2 直接観察

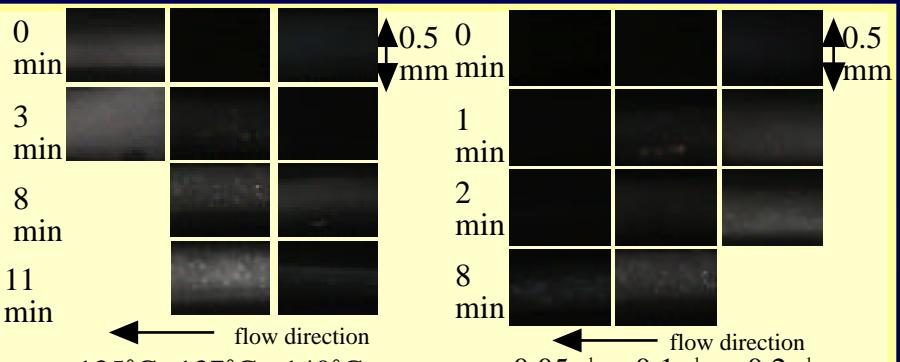
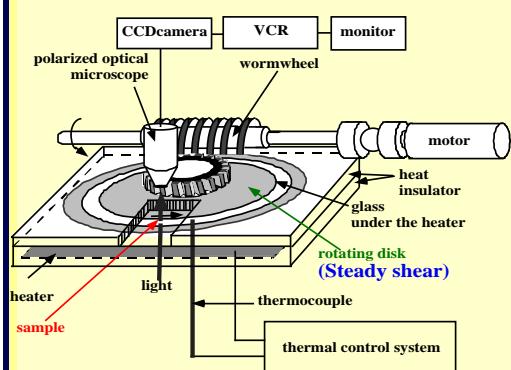


Fig.7 Typical snapshots of the observation ( $T_c = 137^\circ\text{C}$ ).

## 〈結論〉

- 粘度と相対結晶化度の関係は次の式で表されることが分かった。  

$$\eta(X_c) = \eta(0)e^{\alpha X_c} \quad (0 < X_c < 0.15)$$
- せん断速度が大きくなると  $\alpha$  の値は小さくなること、また  $\alpha$  は温度によってあまり変化しないことが分かった。 $(0.05 \text{ s}^{-1} < \dot{\gamma} < 0.2 \text{ s}^{-1})$
- せん断下において核生成速度は一定でなく時間の増加と共に增加了。
- 同じ時間での核数は、せん断速度が高い、もしくは結晶化温度が低いほど多くなることが分かった。

